

養殖業ビジネスの事業性評価項目（貝類養殖）

<評価点（目安）>

各項目について、0～5点で評価する

【0点（何もしていない）、1点（ほんの一部を実施（十分でない））、3点（養殖業として基本的な取組を実施又は問題ない状況）、5点（特別に十分な取組を実施又は良好な状況）】

大項目	No	中項目	貝類養殖（カキ・ホタテ）	貝類養殖（真珠）
			評価の観点	評価の観点
1 市場動向	1-1	過去・現在・将来の動向	○統計データから、養殖種(貝類)の需要トレンド（過去から現在）を把握し、今後3年の未来トレンドはどうか。	○統計データから、養殖種(真珠)の需要トレンド（過去から現在）を把握し、今後3年の未来トレンドはどうか。
	1-2	市場規模	○貝類そのものの市場規模を把握し、上記1-1のトレンドから、市場ポテンシャルはどうか。	○貝類(真珠)そのものの市場規模を把握し、上記1-1のトレンドから、市場ポテンシャルはどうか。
2 経営事業継続力	2-1	養殖事業計画・経営基盤	○漁協または経営体として中期的に経営を展望した計画が策定されているか。また、その計画の振り返り（PDCA）がなされているか。 ○養殖種の過去の市場相場や費用構造を勘案した事業計画が策定されているか。 ○カキ・ホタテが成長・出荷できるまでの期間を考慮したい事業サイクルが構築されているか。	○漁協または経営体として中期的に経営を展望した計画が策定されているか。また、その計画の振り返り（PDCA）がなされているか。 ○養殖種の過去の市場相場や費用構造を勘案した事業計画が策定されているか。 ○真珠が成長・出荷できるまでの期間を考慮したい事業サイクルが構築されているか。
	2-2	漁場環境	○漁場環境（水温、水深、プランクトン等）は貝類養殖にどの程度適したものか。 ○災害リスクを勘案した事業設計となっているか。	○漁場環境（水温、水深、プランクトン等）は真珠養殖にどの程度適したものか。 ○災害リスクを勘案した事業設計となっているか。
	2-3	養殖事業継続実績	○事業サイクル（採苗・種苗仕入れ⇒養殖⇒出荷）にどれだけの期間を要し、それがどれだけの期間継続されているか。	○事業サイクル（採苗・稚貝や母貝の仕入れ⇒養殖⇒出荷）にどれだけの期間を要し、それがどれだけの期間継続されているか。
	2-4	事業収支管理の実施	○貝類養殖に必要な設備・人件費等の経費を把握・管理した上で、事業収支を把握・管理しているか。	○真珠養殖に必要な設備、人件費等の経費を把握及び管理した上で、事業収支を把握・管理しているか。
	2-5	経営者の経営能力・手腕	○経営者が、種苗・種苗の仕入れや養殖工程ごとのタイミング、設備等の資材調達、生産設備を把握・管理する意識・能力を有しているか。（ガバナンス力を日誌、資金繰り表等エビデンスとして確認）	○経営者が、優良母貝の選抜や沖出しのタイミング、設備等の資材調達、生産設備管理に関する意識・能力を有しているか。（ガバナンス力を日誌、資金繰り表等エビデンスとして確認）
	2-6	人材育成	○養殖技術の伝承（後継者問題等）への対策、作業者の確保、法人化など事業継続がなされる取組みが講じられているか。	○養殖技術・挿核技術の伝承（後継者問題等）への対策、作業者の確保、法人化など事業継続がなされる取組みが講じられているか。
	2-7	事業の将来性・可能性	○事業の将来性や可能性について確実性の高い根拠を持っているか。	○事業の将来性や可能性について確実性の高い根拠を持っているか。
3 販売力	3-1	販路先の確保	○既存ルート（漁協経由又は卸売業者）の販売に加え、独自に販路を確保しているか。 ○養殖カキの用途に応じた販路を確保しているか。 ・「垂下方式」により養殖されるカキは、加熱用食材として大量養殖され、量販店や居酒屋等に流通している。 ・「シングルシード方式」により養殖されるカキは、生食用としてレストランやオイスターバー等に流通している。 ○ホタテの輸出版売にどのように取り組んでいるか。	○漁協経由の販売が主流であり、入札会で如何に高い値段で買い付けられるような取組みを行っているか。 （注）真珠がどの程度の加工がなされて入札会で取引されるかは要確認
	3-2	販路拡大への取組み	○既存ルート（漁協経由または卸売業者）の販売に加え、独自に販路拡大への取組みを行っているか。	○漁協経由の販売が主流であるが、独自に販路拡大への取組みを行っているか。
	3-3	商品開発力・加工販売力	○所属している漁業協同組合又は経営体として、付加価値を高める取組みがなされているか。 ○鮮度・触感・味覚・ブランド（商標）などの優位性を有しているか。（他と差別化を図っているか）	○所属している漁業協同組合又は経営体として、商品価値を高める取組みがなされているか。 ○ブランド（商標）などの優位性を有しているか。（他と差別化を図っているか）
4 動産価値	4-1	換金容易性	○換金市場規模、養殖業種を踏まえた換金性やその難易度はどうか。 ○成長段階や出荷時点に応じた換金性および養殖技法に応じた期間リスクはどうか。	○換金市場規模、養殖業種を踏まえた換金性やその難易度はどうか。 ○成長段階や出荷時点に応じた換金性および養殖技法に応じた期間リスクはどうか。
	4-2	在庫バランス	○市場ニーズ、自社のキャッシュフローや過剰在庫回避を考慮して、加工・保存方法や出荷時期を調整・コントロールしているか。	○市場ニーズ、自社のキャッシュフローや過剰在庫回避を考慮して、加工・保存方法や出荷時期を調整・コントロールしているか。
	4-3	物量	○市場・出荷先のニーズ（時期・サイズ・量）に応じた出荷に対応できているか。	○市場・出荷先のニーズ（時期・サイズ・量）に応じた出荷に対応できているか。
	4-4	将来予想価格	○養殖貝の価格の将来はどの程度予想できるか。（過去の水揚げ高の平均値、流通価格及び事業性評価における偏差を基礎データとして算出する。）	○真珠の価格の将来はどの程度予想できるか。（過去の水揚げ高の平均値、流通価格及び事業性評価における偏差を基礎データとして算出する。）

大項目	No	中項目	貝類養殖（カキ・ホタテ）	貝類養殖（真珠）
			評価の観点	評価の観点
5 品質管理・生産管理	5-1	稚貝	○漁協や都道府県、水産試験場からの情報提供を参考に最適なタイミングで採苗が行われているか。 ○養殖開始時の採苗器に付着する稚貝数などを適切に把握・管理されているか。 ○種苗の調達を工夫しているか（自家採苗しない場合）。	○母貝の調達を工夫しているか。または独自に母貝の育成に取り組んでいるか。
	5-2	付着生物の除去	○貝類（ホタテ・カキ）養殖に求められる付着生物の除去を適時適切に実施しているか。	○真珠養殖に求められる付着生物の除去を適時適切に実施しているか。
	5-3	清掃・洗浄 →養殖施設の管理	○養殖施設の清掃や維持管理を適正に行っているか。 ○ホタテの場合は、成長（増重）に伴う垂下深度を維持するなど適切な管理を実施しているか。	○養殖施設の清掃や維持管理を適正に行っているか。
	5-4	品質管理全般	○品質管理基準の策定や品質管理組織（担当）の設置など、漁協および経営体として品質管理に取り組んでいるか。	○品質管理基準の策定や品質管理組織（担当）の設置など、漁協および経営体として品質管理に取り組んでいるか。
	5-5	生産管理全般	○日常の作業記録・管理が継続的に実施されているか。 ○貝毒のモニタリングやその情報を把握しているか。 ○カキ養殖の抑制は適切に把握・管理されているか。 ○ホタテ養殖の中間育成、分散は適切に把握・管理されているか。 ○養殖時の貝数などを適切に把握・管理されているか。	○日常の作業記録・管理が継続的に実施されているか。 ○養殖時の貝数などを適切に把握・管理されているか。
	5-6	衛生管理全般	○食中毒菌の混入を防止するため、水質・水温や養殖施設・加工・出荷作業環境などにおいて衛生管理が適正に行われているか。	—
	5-7	浄化	○浄化の期間、浄化に最適な塩分濃度等浄化水の水質を工夫しているか。	—
	5-8	加工・出荷能力	○手作業である剥き身処理を行う人員体制が整っているか。	○貝殻から真珠を抽出（浜揚げ）・出荷する手作業を行う人員体制が整っているか。
	5-9	認証取得	○HACCP認証、品質規格(FSSC22000、ISO22000等)を取得しているか、または取得しようとしているか。 ○その他環境エコラベル認証(ASC 認証、MEL 認証等)、種苗認証 (SCSA 認証)を取得しているか、または取得しようとしているか。	○エコラベル認証、品質規格(FSSC22000、ISO22000等)、種苗認証 (SCSA 認証)を取得しているか、または取得しようとしているか。
	5-10	知財取得	○知的財産（商標・特許等）を取得しているか、または取得しようとしているか。 なお、的財産（商標・特許等）を有している場合は、知財内容自体の評価は必要に応じて、弁理士による評価を依頼する。	○知的財産（商標・特許等）を取得しているか、または取得しようとしているか。 なお、的財産（商標・特許等）を有している場合は、知財内容自体の評価は必要に応じて、弁理士による評価を依頼する。
6 リスク管理・対策	6-1	天災回避対策	○台風・赤潮・津波被害回避の工夫・手立てを講じているか。	○台風・赤潮・津波被害回避の工夫・手立てを講じているか。
	6-2	病気対策	○過去の病歴を管理し、その対策を継続的に講じているか。 （注）貝類の病気対策は発生海域から持ち込まないことが重要 ○特に貝毒について綿密な対策が講じられているか。 ○トレースバック・回収を行う仕組みをもっているか。	○過去の病歴を管理し、その対策を継続的に講じているか。 （注）近年、一部地域ではへい死が発生しており、対策を講じることが難しい状況にはあるが、事業継続の観点から病気対策以外にどのようなへい死対策を講じているか。
	6-3	環境変化	○へい死リスクとしての高水温、貧酸素、餌不足などの境変化の発生状況を把握し、対応を図ろうとしているか。 ○ホタテにストレスを与える外部環境変化（工場建設や排水問題、埋め立て、空港建設等）の発生状況を把握し、対応を図ろうとしているか。 ○カキについてはストレス耐性が高いが、カキ養殖に影響ある環境条件の変化をどのように認識し対策を講じているか。	○貝類にストレスを与える外部環境変化（工場建設や排水問題、埋め立て、空港建設等）の発生状況を把握し、対応を図ろうとしているか。
	6-4	共済加入有無	○共済・積立ぶらすに加入し、天災発生時の万一の場合に事業継続できるよう備えているか。 （注）同地域の共済加入率によって保証割合変わること留意する必要	○共済に加入し、天災発生時の万一の場合に事業継続できるよう備えているか。また、経営体として何らかの備えを用意しているか。 （注）同地域の共済加入率によって保証割合変わること留意する必要
	6-5	損害保険加入有無	○漁業共済でカバーされない損害を補填するため、別途損害保険に加入し、借入金の延滞やリスクが発生するリスクを回避する手立てをとっているか、また、その補償条件や保険金支払いタイミングは事業継続の上で有効なものか。	○漁業共済でカバーされない損害を補填するため、別途損害保険に加入し、借入金の延滞やリスクが発生するリスクを回避する手立てをとっているか、また、その補償条件や保険金支払いタイミングは事業継続の上で有効なものか。
	6-6	市場リスク	○販売力の項目と関連するが、漁業協同組合又は経営体として安定した販売先の確保や商品開発力による高付加価値商品を生産する等、価格変動リスクの回避策を持っているか。	○販売力の項目と関連するが、漁業協同組合又は経営体として安定した販売先の確保や商品開発力による高付加価値商品を生産する等、価格変動リスクの回避策を持っているか。